

不安の時代に、  
心に希望の灯をともす



劇場版

# 荒野に希望の灯をともす

映画上映とトークショー

8月2日(日)

13:00 ~ 16:30 (開場 12:30)

会場：ふじみ野市産業文化センター

定員：198名



お申込みは  
こちら

# なぜ今、この映画を届けたいのか。

「自分にできることなんてあるのだろうか」

——そう思ったことはありませんか。

中村さんも、現地の言葉も文化もわからないところから始めた人でした。

でも現場に寄り添い続けた先に、65万人の命を支える用水路が生まれました。

ぜひ観に来てください！

上映後のトークイベントには、

中村哲さんの最後のインタビュアー・温野さん、

無肥料自然栽培で地域に根を張る明石農園の明石さん、主催のみんな

そしてフィリピンの貧困を目の当たりにしてきた高校生も登壇します。

テーマは「食卓の向こうに世界がある。」。

難しそうに聞こえるかもしれないけれど、

要するに「私たちが何を食べるかが、世界平和とつながっている」という話です。

お箸を持つ手が、実は遠い誰かの暮らしに届いている

——そんなことを、一緒に考えてみませんか。



# 映画を観て終わらない、 これからの暮らしと生き方を考える時間へ。

20年以上にわたり撮影された映像から、  
医師・中村哲の生き方をたどるドキュメンタリーを上映します。  
上映後には、温野まき氏をはじめとする登壇者が、  
映画とそれぞれの活動をつなぐ対談を行います。

## 登壇者プロフィール



温野まき

メインスピーカー

時雨出版 | 代表

本の大量廃棄や、現在の流通のあり方に疑問を持ち、  
読みたい人の手に本が直接届くかたちを模索しながら出版活動を行う。  
「ほどよいときに降る雨」のように、読む人の心を静かに動かす本づく  
りを目指している。  
中村哲氏へのインタビュー経験を持ち、トークショーでは生前の中村氏  
のお人柄や言葉、現場で感じたことを語っていただきます。



SHIGUREBOOKS\_AOBON



1997年に自然食店を開業し、生産者と生活者を  
結ぶことを軸に、自然食品や無肥料自然栽培の普  
及に取り組んできた。2001年より無肥料自然裁  
培の流通を開始。  
食・農・医をつなぐ実践を続けている。現在無肥  
料自然栽培の普及から貧困の脱却を目指し、プ  
ータン、フィリピンでも活動。

対談者

サン・スマイル  
代表取締役  
松浦智紀



SUNSMILE.OCHIMASHIBABE



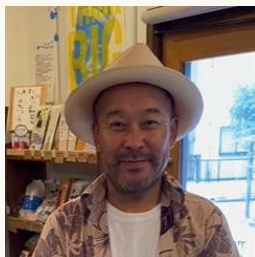
2003年より埼玉県三芳町で無肥料自然栽培に取  
り組む。  
目に見えない自然の働きに学びながら、野菜や  
土、微生物の多様性に耳を澄ませ、人も自然の一  
部として生きることを実践の中で伝えている。

対談者

明石農園  
代表  
明石誠一



AKASHIYASAI



春日部で自然食店を営む。  
農業や化学肥料に頼らない栽培で育った作物や、  
昔ながらの製法でつくられた食品、環境に配慮し  
た日用品を通して、体にも地球にもやさしい暮ら  
しを提案している。  
次の世代へきれいな地球をつなぐことを大切  
に、日々活動している。

スピーチ

アベナチュラル  
代表  
阿部慶介



AVENATURALFOODS



「人の心と身体を健康にしたい」という思いを軸  
に、フレンチやホテル、チャヤマクロビオティッ  
クスで経験を重ねる。  
現在は富士見市鶴瀬で、「ココロと身体を健康  
に」地元野菜や有機食材、発酵の知恵を生かした  
料理を届けている。

スピーチ

3552食堂  
オーナーシェフ  
成田大治郎



3552SHOKUDO



茨城県東海村を拠点に、土づくりを大切にしま  
ながら、さつまいもをはじめとする栽培に取り組む。  
長年の経験の中で農業使用に疑問を持ち、土の分  
析や研究を重ねながら、無肥料自然栽培栽培を迫  
求してきた。タンザニアでの干し芋の製造・販  
売にも関わり、農業を通じた貢献を広げている。  
現在プータンでも活動中。

スピーチ

Tファーム  
代表取締役  
照沼勝浩



T\_FARM



富士見市で家族が安心して食べられる野菜を、と  
いう父の志を受け継ぎ、20年以上続く無農薬栽培  
に向き合う。無肥料自然栽培を行い、自然ととも  
に生き、人とのつながりの中で育まれる農業を大  
切にしなが、次代へ畑と想いをつないでいる。

スピーチ

渋谷農園  
代表  
渋谷正和



SHIBUYA\_NOEN\_SATAMA



プロフィール

サン・スマイル店長の息子。  
普通の高校二年生。今年の3月にフィリピンに行  
き、貧困のリアルと向き合う。現実を見て感じた  
ことを伝えてもらいます。

スピーチ

高校生  
松浦春樹

## 当日の流れ

- 12:30 開場
- 13:00 開会
- 13:05 上映開始 (90分)
- 14:35 休憩
- 14:50 トークイベント
- 16:30 終了

# 武力で平和は守れない

これは「生きるための」戦いだ。

アフガニスタンとパキスタンで、病や貧困に苦しむ人々に寄り添い続けた男、医師・中村哲。戦火の中で病を治し、井戸を掘り、用水路を建設してきた。なぜ医者が井戸を掘り、用水路を建設したのか？その答えは、命を見つめ続けた中村の生き様の中にあり、私たちはこの映画で中村が生き、その軌跡をたどることになる。



「彼らは殺すために空を飛び、  
我々は生きるために地面を掘る。」 —中村哲

中村の誠実な人柄が信頼され、医療支援が順調に進んでいた2000年。思いもよらぬ事態に直面し、中村の運命は大きく変わる。それが“大干ばつ”だ。渇きと飢えて人々は命を落とし、農業は壊滅、医療で人々を支えるのは限界だった。その時、中村は誰も想像しなかった決断をする。用水路の建設だ。大河クナールから水を引き、乾いた大地を甦らせるというのだ。しかし、医師にそんな大工事などできるのか？戦火の中で、無謀とも言われた挑戦が始まった。

「ここには、天の恵みの実感、誰もが共有できる希望、  
そして飾りのないむきだしの生死がある。」 —中村哲

専門家がいないまま始まった前代未聞の大工事は、苦難の連続だった。数々の技術トラブル、アフガン空爆、息子の死・・・中村はそれらの困難を一つ一つ乗り越え、7年の歳月をかけ用水路は完成。用水路が運ぶ水で、荒野は広大な緑の大地へと変貌し、いま65万人の命が支えられている。そして一。

2019年12月。さらなる用水路建設に邁進する最中、中村は何者かの凶弾で命を奪われた。その報にアフガニスタンは悲しみに沈み、ニューヨークタイムズ、BBCなどが悲報を世界に伝えた。あれから2年半。日本ではその生き方が中学や高校の教科書で取り上げられ、母校の九州大学はその思索と実践を研究し始めた。中村の生き様は静かに語り継がれ、輝きを増しながら人々を励まし続けるだろう。そして用水路はこれからもアフガン人の命を支え続けていこう。

日時：2026年8月2日（日）  
時間：12:30開場／13:00開始／16:30終了  
会場：ふじみ野市産業文化センター 多目的ホール  
東武東上線 ふじみ野駅から徒歩6分

定員：198名  
一般：¥2,300  
学生・障がい者：¥1,500  
小学校以下：無料

お問い合わせ先：サン・スマイル  
電話：049-293-2031  
mail：generalaffairs@sunsmile.org

お申込み方法：QRコードよりお申し込みください  
アクセス先：<https://subarashii.peatix.com/>



共同主催：サン・スマイル 明石農園 3552食堂 アベナチュラル 渋谷農園 T-ファーム  
後援：ふじみ野市（申請中）